



様式第8号（第6条関係）

平成28年 3月31日

薩摩川内市議会

議長 上野 一誠 様

（会派代表者経由）

会派の名称 公明党

経理責任者氏名 中島 由美子



政務活動費に係る収支報告書

薩摩川内市議会政務活動費の交付に関する条例第8条の規定により、次のとおり、平成27年度政務活動費に係る収支報告書を提出します。

1 収入

政務活動費 360,000 円

2 支出

（単位：円）

科 目	金 額	備 考
調 査 研 究 費	171,506	4/14～17福島県、8/31日置市
研 修 費	43,900	5/29 地方議員研究会主催セミナー
資 料 作 成 費		
資 料 購 入 費	55,800	教育新聞、国会資料等
広 報 費		
広 聴 費		
要 請 ・ 陳 情 活 動 費		
会 議 費		
人 件 費		
事 務 費	19,762	インクカートリッジ、用紙等
合 計	290,968	

3 残余の額

69,032 円

注1 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

2 領収書、活動報告書その他必要な書類を添付すること。

3 会派に属さない議員の場合は、「会派代表者経由」の必要はないこと。

4 会派に属さない議員の場合は、「会派の名称」は記入しないこと。

5 会派に属さない議員の場合は、「経理責任者氏名」とあるのは「議員の氏名」と読み替えること。

平成28年 3月31日

薩摩川内市議会

議長 上野 一誠 様

会派の名称 公明党

代表者名 中島 由美子



活動報告書

1 調査研究事業

【第1回政務調査】

(1) 調査年月日

平成27年4月14日（火）～4月17日（金） 4日間

(2) 調査参加者

杉藪道朗・中島由美子（2名）

(3) 調査先及び調査項目

福島県

「被災自治体（楢葉町）の現状と課題について」

「福島第一原子力発電所の現状について」

「被災地における障がい児の現状について」

(4) 調査の概要

別添視察報告書のとおり

【第2回政務調査】

(1) 調査年月日

平成27年8月31日（月）1日間

(2) 調査参加者

中島由美子（1名）

(3) 調査先及び調査項目

日置市 ㈱丸山喜之助商店

「生ごみ回収の現状とその処理方策について」

(4) 調査の概要

別添視察報告書のとおり

2 研修事業

(1) 研修年月日

平成27年5月29日（金）1日間

(2) 研修参加者

中島由美子（1名）

(3) 研修地及び研修項目

福岡市 地方議員研究会主催セミナー

ア 役所を動かす質問の仕方～決算カードフル活用～

イ 役所を動かす質問の仕方

政 務 調 査 報 告 書

平成 27 年 5月 28日

薩摩川内市議会

議長 上野一誠 殿

会派 : 公明党

幹事長 : 中島 由美子



調査年月日 平成27年 4月 14日から 4月 17日まで

参加議員 公明党 : 杉藪道朗 中島由美子

調査地 ・ 調査事項

- 1 「原発事故被災の現状」報告会
福島県いわき市 かんぼの宿 いわき にて
- 2 いわき市仮設住宅避難者の現状と課題の調査
- 3 福島第一原子力発電所の現状視察
- 4 障害者（児）から見た避難のあり方と現状の課題、及び
飯館村、浪江町の立入制限区域内の実情調査

上記の概要は、以下のとおりでした。

記

別紙のとおり

1 「原発事故被災の現状」報告会

(福島県いわき市 かんぼの宿 いわき)

・報告者：石丸 小四郎 氏 (社民党県連・原発対策委員会顧問)

・写真などを使って、3月11日からのことを報告された。原発について長年詳しく調査されておられるだけあって、詳しい報告だった。何せとてつもない大きな地震があったこと、それにより、原発も危ないと、21時頃に半径3キロ圏内の住民に避難、3キロから19キロ内は屋内退避の指示が出た。これからが原発複合災害の始まり。

放射能は、味においもしない、目にも見えないしかしこれにより多くの人々、子どもまでふるさとを去り避難所を少なくとも8回は移動しているとのこと。

いまだに帰ることができない。汚染水、使用済み核燃料、雑个体廃棄物焼却など未解決問題がある。放射能に対する恐怖・・・甲状腺がんの疑いなどもある。

風評被害もある。一度起きてしまうととんでもないことになる。どんなことがあっても事故を起こさない覚悟が改めて大事であると思った。

2 被災自治体 (檜葉町) の現状と課題

(福島県いわき市 かんぼの宿 いわき)

・報告者 半谷 喜代美 氏 (檜葉町生活支援課・主幹)

会の次第は別紙の通り

・ 会には檜葉町町長の松本 幸英氏、議会議長の青木 基氏も出席、挨拶をしてくださった。檜葉町は3. 11から4年たち、今避難指示解除準備地区になっている。

2800世帯の284世帯が準備宿泊を届け、帰宅に向け準備をされているとのこと。

3月11日、大きな地震、そして津波がおそった。「津波てんでんこ」・・・幼稚園、保育園の頃から言い伝えられ、逃げる習慣ができています。とにかく逃げる。コミュニティがしっかりしていて誰が誰を、どこにどんな方がいるのかよく知っていて連れて逃げる習慣もできています。だから津波による死亡は13人で済んだ。(訓練もできていた。)

東京電力社員の家族への情報により、全町避難を町が決めた。早い判断であり、日頃の防災訓練のたまものであった。しかし、避難により、生活が一変。右も左もわからない。家がなくなった(地震、津波で)ひともあれば、家は大丈夫だったけど帰れなくなったひともある。

仮設住宅は、広さが限られる。(1人6坪、12畳 2人9坪、18畳) お隣さんと別れることへの不安。福島は原発のために、岩手、宮城と違うことは、放射能に対する不安。小さい子ども

ものいる家庭では、かぞくがばらばら。三世代同居家族がばらばらに。

H24年8月には警戒区域解除となり、H27年4月には帰宅準備期間に入った。できることなら帰りたいでも、帰っても病院、店などやっとなら慣れてきた生活をまた変えることに不安。学校は、仕事は。家族であっても一人一人思いは違う。生活支援課として一人一人に寄り添うことを心がけている。

話を聞いて、本当に大変だったと思った。しかし、変えられるようになったからと言ってこれまたいろいろ問題があることもわかった。しかし、生活支援課が中心になって、ひとりひとり、家族家族の思いを聞いておられることに感動。安心して帰れる町になったことを楽しみにしている方もあるとのこと。元のようにはなかなか難しいかもしれないが、遠い地からではあるが、応援したいと思った。

3 福島第一原子力発電所の現状視察

・ バスにより福島第一原子力発電所の現状視察ができた。

防護服を着ると言われていたが、靴カバーと手袋、放射線計量器の装備で済んだ。4年たち外から見る感じは大分きれいになっていると思った。バスの中では東京電力社員が放射線量をはかりながら丁寧説明してくれた。発電所内では多くの方が作業をしている。防護服の方々もあり、放射線が高いのだろうと思った。バスの中でも高いところがあったが、大分管理されているんだと思った。

今更言っても仕方がないが、こんな事故が起きないようにできなかったのかとやはり思う。

H28年には、廃炉研究施設ができるとのこと。核廃棄物などしっかり処理できるようにしてほしい。人間が管理できる放射能であってほしい。

4 障害者（児）から見た避難のあり方と現状の課題 ・ ・ ・ 南相馬市中央図書館内 飯館村、浪江町の立入制限区域内の実情調査 ・ ・ ・ 移動中のバス車中より

・ 貸し切りバスで南相馬市までの状況を視察した。浪江町には許可を取り、町内及び沿岸部津波跡地の視察ができた。浪江町は帰宅準備期間に入っているのでもの出入りが少しはあるが、ほとんど家は地震被害にあつたまま修理も何もできていない。全町避難されたあと、窃盗団が入り、電化製品など金目のものはとられたとのこと。ガラスなども割られたまま、動物が入った足跡などもあった。人が住んでいないゴーストタウン。悲しい気持ちになった。沿岸部もまだまだ今から。車などもひっくり返ったまま。宮城、岩手と違うところが、放射線の影響で手が入れられなかったため、今からのがれき除去等。バス車中からも飯館村等通ったが、田んぼや畑など広いところには黒い除染で出た土などの山々。家の庭などにも積まれていた。ますます増えていくのだろうかどう処理するのだろうかと思った。



政 務 調 査 報 告 書

平成 27 年 9月24日

薩摩川内市議会

議長 上野一誠 殿

会派 : 公明党

幹事長 : 中島 由美子



調査年月日 平成27年 8月 31日 (月)

参加議員 公明党 : 中島由美子

研修 1 生ごみ回収処理事業 (日置市)

場所 株式会社 丸山喜之助商店 (日置市伊集院町大田3145番地)

感想 台風15号の直後であり、お忙しい中対応していただきありがとうございました。

日置市役所から現場である丸山喜之助商店へ行き、現地視察をさせていただきました。見たら一目瞭然、大変簡単な仕組みでした。ただ生ごみを小さく砕く粉碎器があり、それを入れていくスペースがあるだけです。生ごみの状況が日により変化するので、入れておくスペースは4カ所くらいありました。要は生ごみと竹チップを攪拌することで生ごみが消滅していくのです。不思議な気がしましたが、竹チップに生ごみを消していく酵素なる物が存在するそうです。その酵素については企業秘密だそうです。

こんな簡単な仕組みで生ゴミを0にできるのであれば取り入れる必要があると思いました。

日置市では現在モデル地域を設け、約2000世帯、5000人を対象に生ごみ回収をしておられるとのこと。水切り、生ゴミを入れるバケツが配布され、ごみ置き場に置かれた、大きなバケツに各家庭のごみを入れてもらうだけで、後は回収業者により処理場へ運ばれる仕組み。生ごみは毎日でもごみ置き場のバケツに入れることができ、大変喜ばれているようです。また、生ごみ1kgを10円で買い取り、地域の活性化奨励金として自治会へ払われることになっているようです。Co2Co2マイルージというそうで、

自治会にとっても助かると思います。薩摩川内市でも各自治会が資源ごみ回収に取り組んでいただくことで地域に補助金を落としていますが、さらに生ごみもとなると、楽しくできるところもあるのではないかと思います。何より生ごみが0になるわけで、燃やもしない、埋めることもないわけですから環境に本当に優しい取り組みだと思います。是非薩摩川内市にも提案したいと思います。

政 務 調 査 報 告 書 (研 修)

平成 27 年 6 月 25 日

薩摩川内市議会

議長 上野一誠 殿

会派 : 公明党

幹事長 : 中島 由美子



調査年月日 平成27年 5月 29日 (金)

参加議員 公明党 : 中島由美子

- 研修
- 1 役所を動かす質問の仕方～決算カードフル活用～
 - 2 役所を動かす質問の仕方

講師 川本 達志 氏 (元 廿日市市副市長)

行程 川内駅 → 博多駅 → リファレンス駅東ビル
7:42発 (つばめ314号) 9:19着 徒歩
リファレンス駅東ビル → 博多駅 → 川内駅
16:40 徒歩 17:08発 (さくら417号) 18:33着

感想

前日から、研修が組まれており、予算の見方や役所の組織と運営などの内容だった。この内容から受講できたらもっとより理解できたかなと思ったが、残念ながら2日めだけの参加になった。それぞれの自治体の決算表を準備してあり、それを元に細かい見方を教えていただいた。それぞれの自治体が、借金を抱えながらも交付金や補助金を使い、義務的経費を除き、様々な活性化に向け財源を捻出していることが理解できた。

借金が多いのもいけないが、借金が少ないのもよくないと言われた。大切な税金を使って自治体は動いていることを、そしてその中で多くの人々が生活していることをもう一度よく考え、安心して暮らせ、元気ある政策を考えたいと思う。